

キャラクター名
加恋・エミリア・クルト

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	オプショナル		年齢	17	性別	女
覚醒	命令	衝動	憎悪		初期侵食率	33 %
出自	安定した家庭	経験	永劫の別れ	邂逅	主人(霧谷雄吾)	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	5	1	0			6	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
60↓	白兵	9r+2		5		フレイムタン/破壊の爪=-4+9=5
60~80	白兵	10r+2		5		フレイムタン/破壊の爪-4+9=5
80~100	白兵	9r+2		32		フレイムタン/破壊の爪/クロスバースト/FPA=-4+9+12+15=32
100↑	白兵	11r+2		43		フレイムタン/破壊の爪/クロスバースト/FPA-3+10+16+20=43

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
両親[P]	P 憧憬	N 食傷		
元カレ[N]	P 執着	N 恐怖		
桐谷雄吾[P]	P 信頼	N 隔意		
綾瀬真花[N]	P 懐旧	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
フルパワーアタック	3	4	セットアップ			自動	80↑	
効果: ラウンド中、攻+[Lv*5]								
完全獣化	1	6	マイナー			自動		
効果: シーン中【肉体】ダイス+[Lv+2]個、アイテム不可								
破壊の爪	1	3	マイナー			自動		
効果: 素手→攻+[Lv+8]、命中0、G値1								
コンセ: サラマンダー	2	2	Xジェー			シンドローム		
効果: いつもの								
クロスバースト	3	4	Xジェー			白兵	80↑	
効果: 攻+[Lv*4]、ダイス-2個								
フレイムタン	1	2	Xジェー			シンドローム		
効果: 射程視界、攻-[5-Lv]								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

プレイヤー優先で組んだので、強くないのは分かっている。
80まで何もできない人だけど、80超えても大して強くない。
コードネームは綾瀬真花との関係を水解散せたいという思いから決めました。

ドイツ人の父(ITエンジニア)と日本人の母(兼業主婦)ハーフ。
一人っ子。
基本的に他人への当たりが強く、顔立ちの良さに比して男子からの人気は低い。
ふるまいに頓着しない彼氏からは顔面のみを見られていた。

綾瀬真花とは小学校からの付き合い。
高校に入ってすぐに付き合っていた彼氏に暴力を振るわれており、気づいた真花が別れるようすすめてきたが、加恋は彼氏に依存しており、暴力を振るわれるのは自分が悪いからと言ってきかなかった。
最終的に見かねた真花が加恋の父親に連絡。激怒した父親が彼氏の家に乗り込むなどに至った。
「真花のせいだ彼氏と父がケンカした」と真花に当たってしまい、彼女と喧嘩してしまう。
彼女と馴れ顔を合わせるのが嫌で、交通手段を電車からバスに変えた。
最終的にその彼氏とは別れ、今では綾瀬真花のおかげで助かったことを感謝している。
彼女に謝りたいと思い続けていたが機会を失い、ついに高校3年生になった。
違うクラスだった2年生を経て同じクラスとなるも、まだその関係はぎこちなかった。
そんな折、バス乗り場に放送が入った。電車が止まり、臨時バスが出る、と。
そこで加恋は真花と久々に言葉を交わすことになる。